

- ・ 碎土率を高めるために、額縁排水溝の手直しをしましょう。
- ・ 適期（5月下旬～6月上旬）に播種し、生育量を確保しましょう。

1 ほ場選定

- ・ 連作すると雑草や病害虫の発生が多くなりますので、ほ場条件を考慮して、作付場所の変更を検討しましょう。

2 排水対策

- ・ 適期に播種できるよう耕起前に必ず額縁排水溝を手直しし田面が乾きやすい状態にしましょう。

3 種子消毒と浸種

- ・ 出芽率向上のため、浸種を兼ねてしっかり消毒を行いましょ。

消毒剤：ベンレートT水和剤20（200倍液）

浸種期間：72時間（3日間）

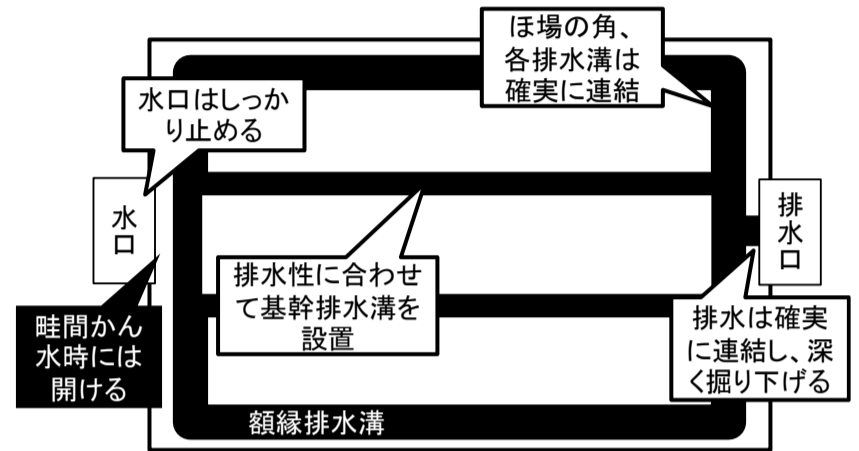
※種子消毒・浸種は、日陰で行いましょう。

（水温が高くなると出芽します）

※薬剤は沈殿しやすいので、消毒ムラが生じないように、1日に1度、攪拌しましょう。

- ・ 浸種後は、風乾してから播種しましょう。

※浸種後の種子を長期間保存する場合は、網袋に浸種した種子を湿った状態に入れ、冷蔵（5℃程度：芽が動かない温度）で保存しましょう。（1か月ほど保存可能）



・ 10a 当たりの必要量（目安）
種子 3kg + 薬剤 75g + 水 15ℓ

4 播種作業

- ・ 耕起、碎土・整地、は種作業は土壌の乾いた日に、一連で実施しましょう。

- ・ 播種が6月中旬に遅れる場合は播種量を4～5kg/10aに増やしましょう。

- ・ 播種適期 5月下旬～6月上旬
- ・ 播種量 3kg/10a
- ・ 播種深度 3～4cm程

5 除草剤の散布

使用時期	使用薬剤	10aあたり散布量
耕起前または播種前	ラウンドアップマックスロード	200～500ml/(水)50～100L
播種後～出芽前	畝立て播種	ラッソー乳剤※
	平畝播種	サターンバアロ乳剤+ゲザプリムフロアブル

- ・ 播種後の除草剤は、土が乾ききる前に均一に散布しましょう。

※ラッソー乳剤は、薬害が発生する場合がありますので

①平畝では使用しない。

②大雨が予想される場合は、雨が止んでから使用する。

土壌が乾いてしまうと、除草効果が低くなります。

6 肥培管理（10a 当たり）

○『分施』の場合

	土づくり資材※		基肥	追肥 (播種後30日)
肥料名	苦土石灰	堆肥	基肥555	LPコート100
施用量	100kg	1～2t	20kg	40kg

○『基肥一発施肥』の場合

	土づくり資材※		基肥 (播種同時施肥)
肥料名	苦土石灰	堆肥	新はとむぎ一発
施用量	100kg	1～2t	50kg

※ 連作などで、pHが6.5を超えるほ場では、苦土石灰を施用しない。